

一般社団法人 指定管理者協会
令和5（2023）年度 春の公開セミナー



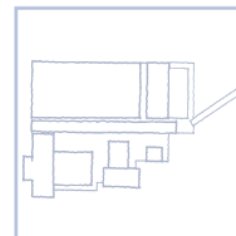
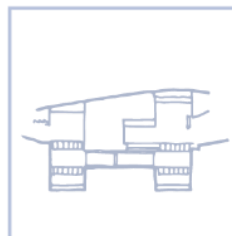
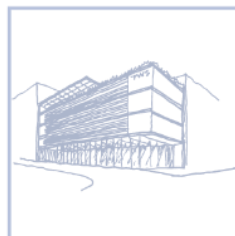
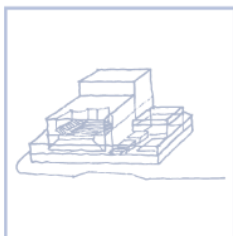
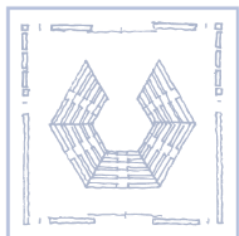
劇場ホールのすべてをつくる その課題と未来像



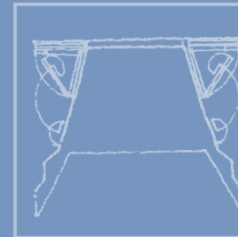
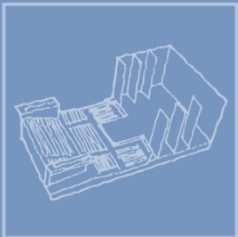
伊東正示

株式会社シアターワークショップ 代表

 **Theatre**
Workshop



自己紹介



伊東正示

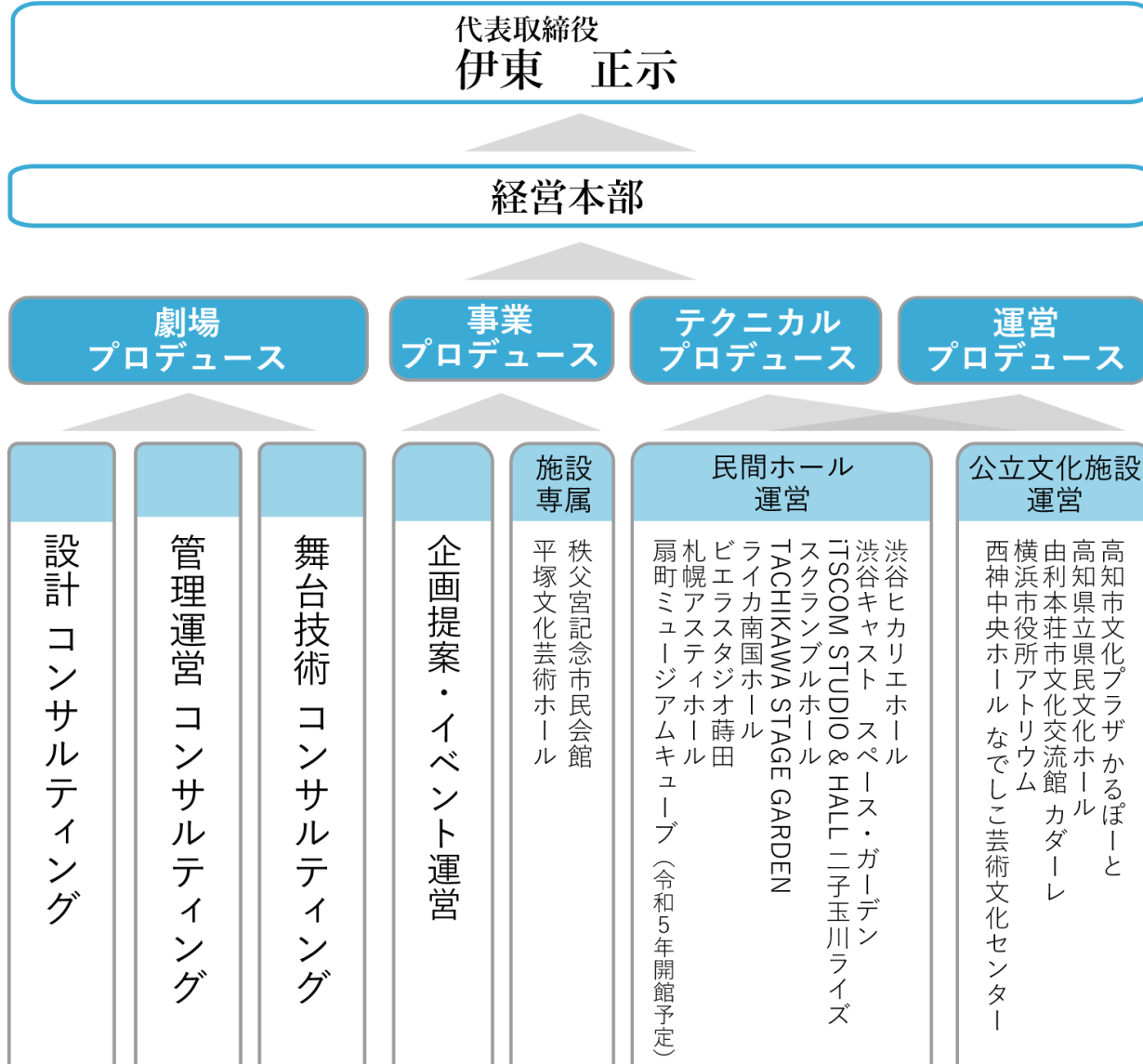
株式会社シアターワークショップ 代表



- 1952年 千葉県船橋市で生まれる
- 1958年 成城学園初等学校で『劇』に出会う
- 1970年 早稲田大学建築学科で『建築家』を目指す
- 1974年 大学院で『小劇場』を研究テーマにする
- 1976年 博士課程に進学
『公立文化施設のネットワーク化の研究』開始
- 1976年 文化庁で『新国立劇場』の設立準備に参加する
- 1983年 『シアターワークショップ』を設立し、劇場プロデュースを始める
- 1991年 慶應、昭和音大、早稲田で『アートマネジメント教育』に携わる
- 2008年 『職能としての劇場コンサルタントの確立と一連の業績』で
日本建築学会賞（業績）受賞
- 2021年 文化庁長官表彰 受賞

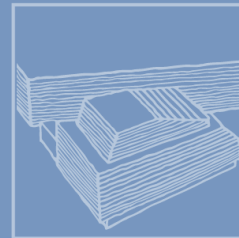
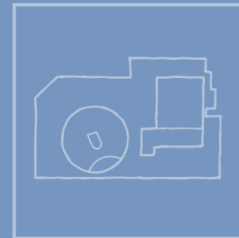
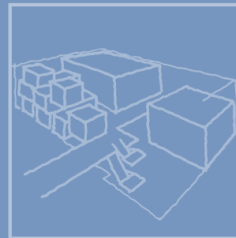
劇場プロデュースカンパニー

Theatre
Workshop



劇場の大改革

今まさに新型コロナウイルス化の中にあっても、舞台芸術やその上演の場である劇場は
大打撃を受けつつも改革に向けた新たな試みをはじめている...

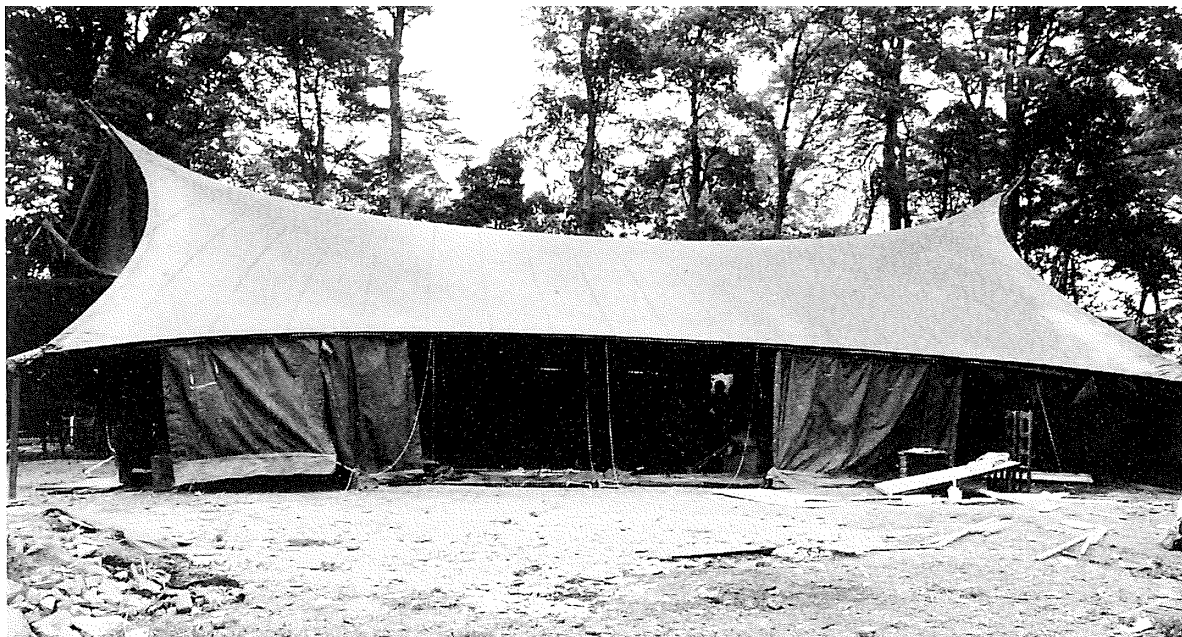


60年代演劇における大改革

小劇場演劇 と呼ばれた60年代の日本の演劇界の新たな
ムーブメント

非劇場空間 の **劇場化**

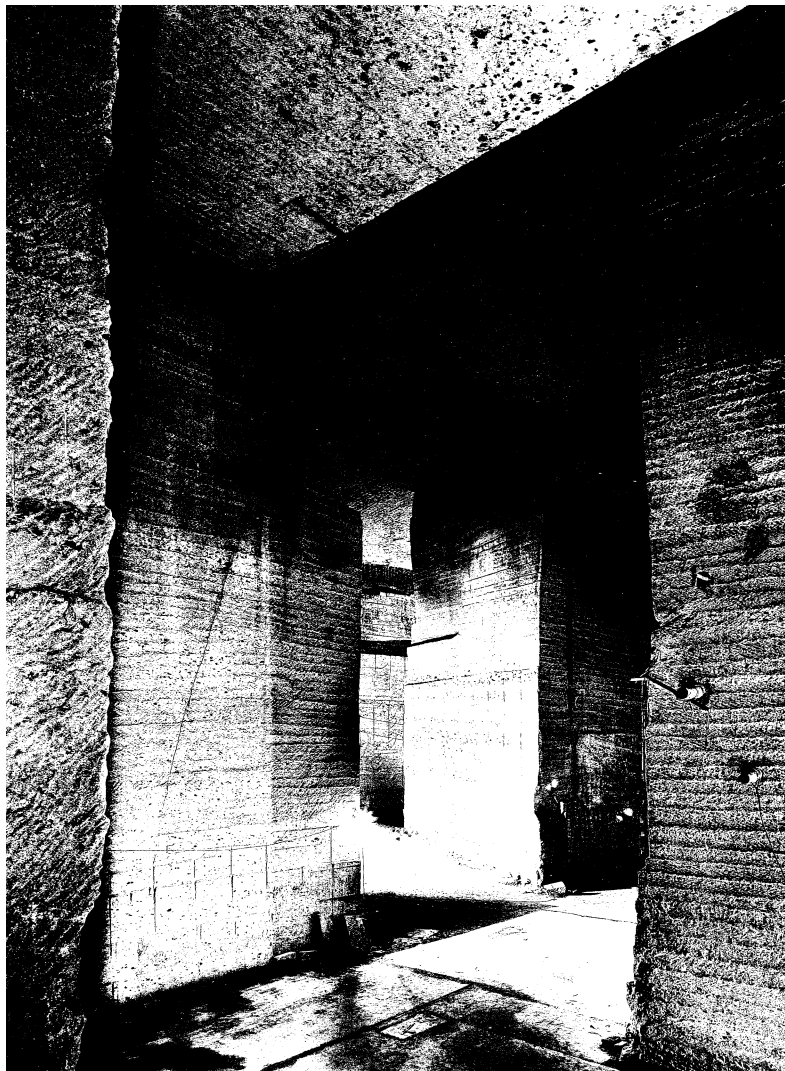
演劇を上演する **こそ 劇場**



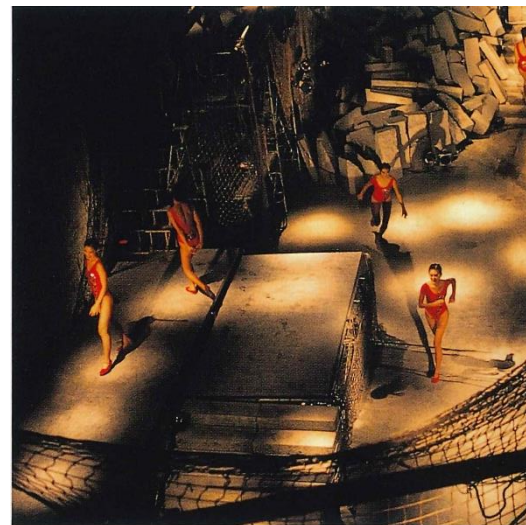
黒色テント劇場

紅テントと共に60年代演劇を代表するテント劇場。斎藤義氏設計。

60年代演劇における大改革



大谷石地下採掘場跡



KANSAI FASHION SPECTACLE「行くぞッ」

存続の危機が新たな可能性を生む

2020年代は**新型コロナウイルス感染症**のパンデミックから始まる

ポストコロナ時代に向けたエンタテインメントの**新しいスタイル**

無観客ライブ配信 という**新しいジャンル**の誕生

劇場でのコロナ対策

換気、指定席の設定、舞台端と客席最前列の距離2m確保、もぎりの簡略化、正円禁止、舞台関係者のケーティングの禁止（個別配布できるもの）、楽屋面会禁止 等



消毒



検温



マスク



仕切り

存続の危機が新たな可能性を生む



とぎつカナリーホール／一席飛ばし用の掲示

後列はレナード・バーンスタインとモーツァルト。前列はフレディ・マーキュリーと武田信玄の予約席

劇的な空間の魅力

コロナ架であっても留まることのない**劇場建設の勢い**

コロナ架のおかげで生まれる**新たな発想**

劇場以外の空間をいかに**劇的な空間**とするか



渋谷ズンチャカ

渋谷の街を舞台に行われる参加型音楽フェスパレード



三茶de大道芸

三軒茶屋の広場や通りを使用する大道芸フェスティバル

劇的な空間の魅力



劇団唐ゼミ「唐版風の又三郎」公演
新宿中央公園水の広場に設営したテント劇場
で行われた公演



平成中村座
18代中村勘三郎が企画した仮設テントの芝居小屋
での歌舞伎公演

劇的な空間の魅力



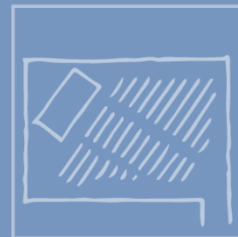
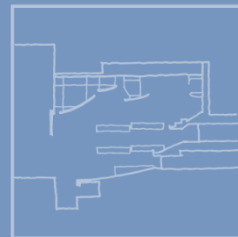
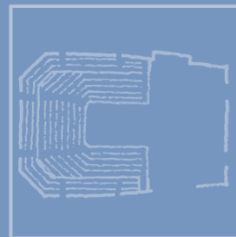
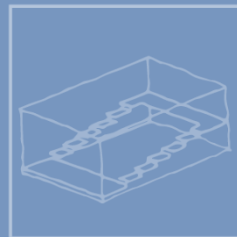
スウェーデン王立歌劇場のホワイエで
開催されたランチ付きコンサート

北上文化交流センター・さくらホール
共用ゾーンの大階段を客席押しして利用した
パフォーマンス



劇場は広場、広場は劇場

ストリートパフォーマンスは道路を劇場に変え、路上ライブは駅前広場をコンサートホールに変える。
あらゆる空間が劇場になりえる。劇場法によれば劇場は新しい広場だ。
ならば、広場は新しい劇場なのだと考えて見よう。



劇場は新しい広場

時代と共に変化する**公共文化施設**の**役割**や**利用形態**

1 第一世代 = 施主の時代

- 公会堂・市民会館は**みんなで集まれる施設**をつくることが目的で知事や市長のリードのもと建設
- 1968年 文化庁設置 → 文化会館・文化センター = **多目的ホール**

2 第二世代 = 芸術家の時代

- 多目的ホールから**主目的ホール**へ
- **パフォーミングアーツセンター**（複数の専用ホール・創造部門の充実）

3 第三世代 = 観客の時代、創客の時代

- 市民参加、市民参画、**市民が主役**の地域劇場・パブリックシアター
- **日常的なにぎわいの創出**、まちづくり、ひとづくり

劇場は新しい広場

そうした市民会館の発展の流れを反映してできた
文化芸術基本法（2001年）※2017年改訂

劇場、音楽堂等の活性化に関する法律（2012年）= 劇場法

- 劇場は「**新しい広場**」として地域コミュニティの創造と再生を通じて**地域の発展を支える機能**が期待される

北上市文化交流センター・さくらホール
アートファクトリーには椅子とテーブルが置かれ、
公演のバナーが吊られ、ガラス張りの練習室
の活動が覗ける。



劇場は新しい広場



茅野市民館マルチホール

ホールのホワイエ側の壁と中庭側のサッシュを開き、中庭の端からの長いバージンロードを歩く設計者古谷誠章氏とご令嬢（2010年7月）

さいき城山桜ホール

オープンフェスティバルのメイン会場はアートプラザと名付けられたエントランスホール（2020年10月）



建築会館中庭

日本建築学会関東支部主催の「劇空間を再考せよ」では中庭にテント劇場を設置してイベントを実施（2009年7月）



広場は新しい劇場

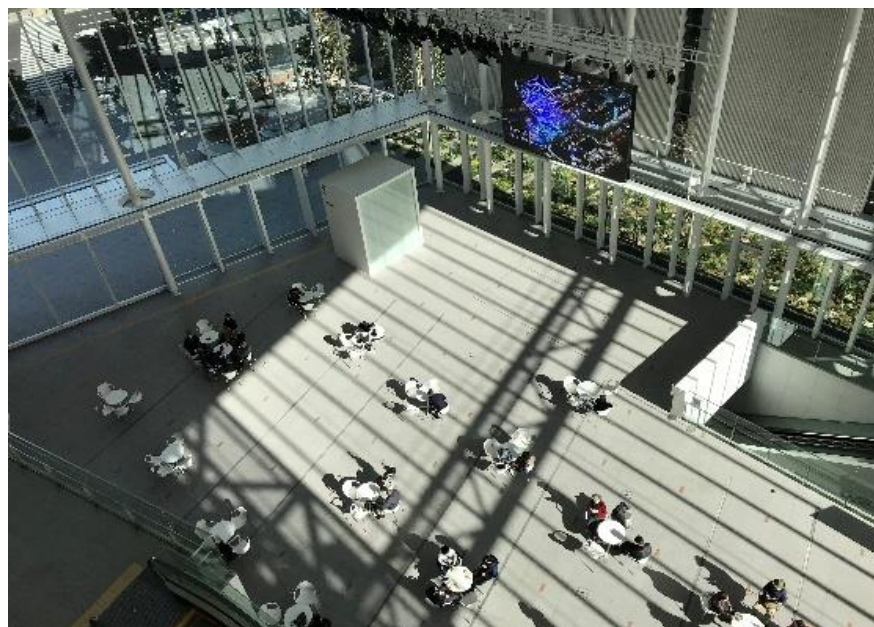
公共エリアの劇場化

エントランスホール、アトリウム、大階段、屋外劇場 等

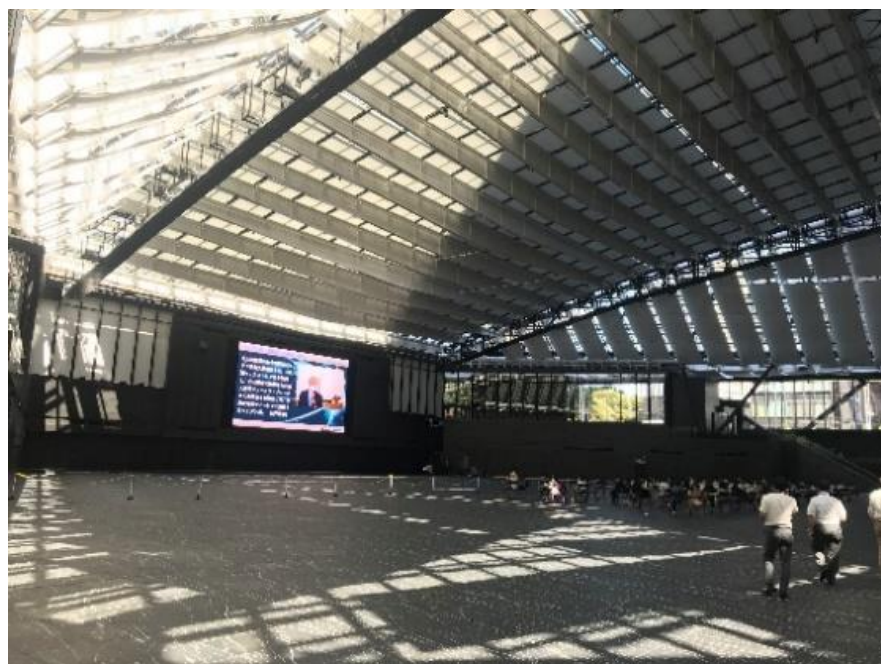
計画段階から**劇場としての機能**を盛り込んでおくことが必要

- 不特定多数の人々が集まるイベントの実施には様々な法的規制がある
- 演出効果を発揮するためには施設の的にも設備的にも対応必要
- 搬入のしやすさや床の強度、動線やゾーニングなどを考慮

横浜市役所アトリウム
昇降ステージや照明バトン、
大型LEDビジョンを設置



広場は新しい劇場



住友新宿ビル三角広場

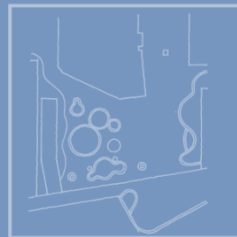
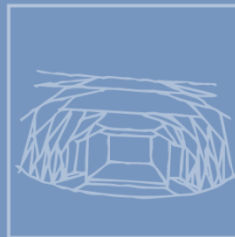
天候に左右されない快適な環境の中で、ライブパフォーマンス、スポーツイベント、食フェス、観光イベント、ライブビューイングなどが行われている



池袋西口公園野外劇場 グローバルリングシアター
リングを支える柱には音響や照明の機材が設置されており、周辺の騒音を気にせずにクラシック音楽の演奏会も楽しめる環境を作り出している

目で聴く音楽、耳で観る演劇

われら人間は常に五感を使って生きている。第六感を働かせるときさえある。
だったらコンサートは聞くだけ、演劇は観るだけなんてことはありえない。
もっともっと五感のすべてに訴えることがコンサートや演劇などのライブパフォーマンス
の魅力を高めることにつながるはずだ。



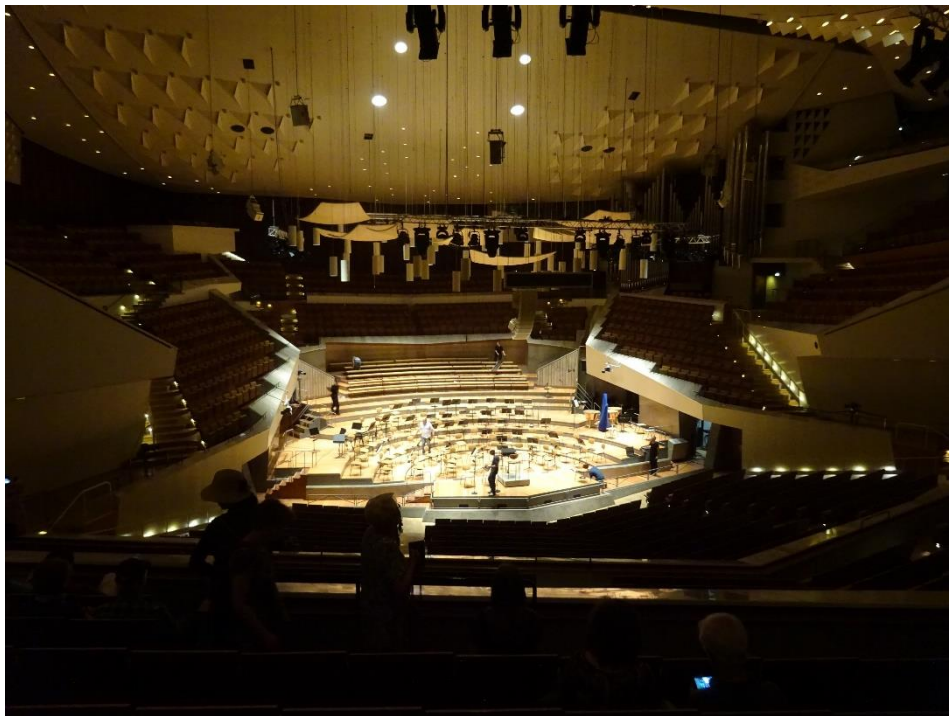
目でも楽しいコンサートホール

世界の名だたる**コンサートホール**を手掛ける**音響設計者**
が着目した、クラシック音楽のコンサートでも重要視される**視覚効果**

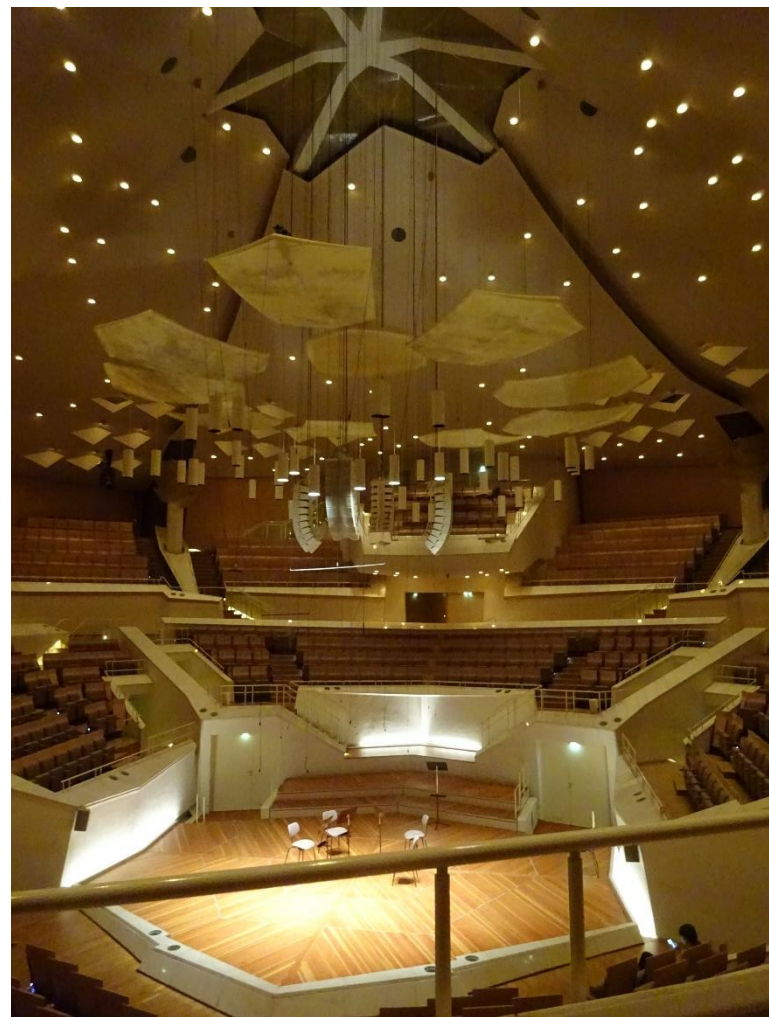
オペラグラスをかけると、歌手の声が大きくなる？！

エルプフィルハーモニーの設計のヒントは
コンサートホールではなく**ミラノスカラ座**？！

目でも楽しいコンサートホール



ベルリン・フィルハーモニー大ホール
ハンス・シャロウン設計 1963年開館
ヴァンヤード形式のコンサートホール。2440席



ベルリン・フィルハーモニー室内楽ホール
1980年増築。大ホール同様ヴァンヤード形式であり、
さらに親密度の高い空間となっている。1180席

目でも楽しいコンサートホール

ELBPHILHARMONIE HAMBURG

エルプ・フィルハーモニー ハンブルグ



外観

古いレンガ倉庫の上に増築され、
周辺エリアを含めて新たな観光名
所となっている



内観

ホール多層に積み上げられた客席が舞台を取り囲む。2150席

目でも楽しいコンサートホール

PIERRE BOULEZ SAAL

ピエール・ブーレーズ・ザール

演奏者と聴衆が
一つの円陣をくんでいる
様なコンサートホール



ベルリン国立歌劇場の収蔵庫だった空間をリノベーション
四角い箱の中で682席の楕円形の客席が舞台を包み囲む

コンサートは見に行くもの

シネマ・コンサートと呼ばれる新ジャンルのエンタテインメント

『ラ・ラ・ランド』や『ジョーカー』のようにアカデミー賞作曲賞を獲得した作品を大画面で見ながら、映像にシンクロした生のオーケストラ演奏を楽しむコンサート

ミュージカルやアニメの映画だけでなく、**ゲーム音楽**のコンサートも人気。大型映像と生オーケストラの相性はとても良い

ポップス系コンサートでは**視覚的な要素**がより重視されている

視覚と聴覚が重なるシステム

演劇劇場の大型化による**電気音響システム**の使用により
進んだ**視覚と聴覚のギャップ**を解消するシステムの開発

イマーシブサウンドシステムの導入

客席全体を包み込む三次元の音づくり

演奏者の位置から音が聴こえるように
音像を定位させるシステムの導入

札幌文化芸術劇場『シアタージャズライブ』
仮設ステージの前方には5セットの大型スピーカーが吊り込まれている。また、客席を取り囲むように小型のスピーカーも配置され、素晴らしい音空間を作り出している。



シアターコンプレックス

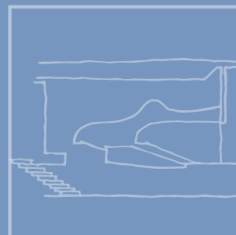
高度経済成長期を象徴していた「大きいことはいいことだ！」というフレーズ。

今はなき渋谷パンテオンのように映画館もオオバコだった。

やがて時代が変わって映画館はシネコンに。

だったら、劇場も小劇場が集積するシネコンならぬシアコンがあってもいいじゃないか。

そこに新しいドラマが生まれる予感がする。



シネコン？いや、シアコン！



シアターワークショップが提案するシアターコンプレックス

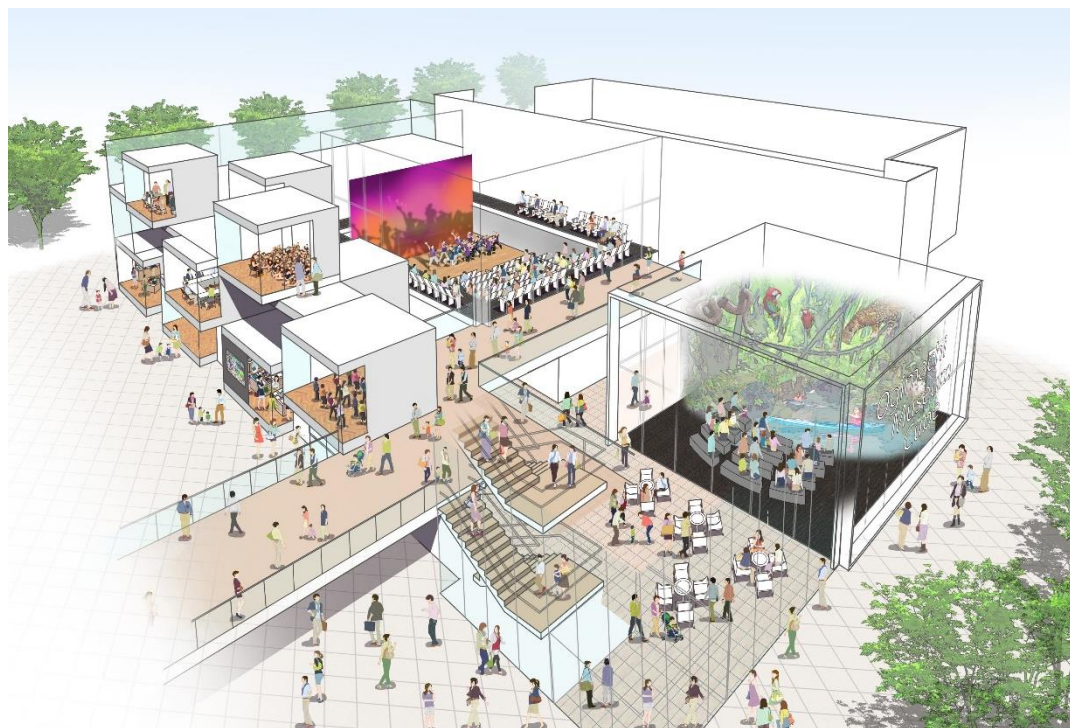
100席～300席程の**小さい劇場や稽古場を集積**した、
演劇やダンス、音楽や映像作品をつくるプロを目指すひとたちの**芸術拠点**

様々なジャンルのアーティストが集まれば、**面白い化学反応**が生まれるかも？

舞台芸術が市民社会に定着する**まちづくり**

扇町ミュージアムキューブ

3つの劇場 + 7つの多目的スペース
合計10のキューブからなるシアター・コンプレックス



- かつての扇町ミュージアムスクエアの後継施設として建てられる、総合病院に併設したシアコン
- 2023年10月開館予定

(仮称) 扇町ミュージアムキューブ計画案 提供：安井建築設計事務所

小劇場による劇場街

100館を超える小劇場が林立する
ソウルの大学路にみる小劇場街



大学路の中心にあるアルコ芸術劇場
韓国の丹下健三と称されるキム・スグン氏の設計



大学路の街角
建物の壁面にも多くのポスターが貼られ、劇場の受付テーブルが置かれている。



大学路の劇場案内所掲示板
多くの公演チラシが壁面いっぱい貼られている

小劇場による劇場街

東京の小劇場が集まる劇場街、下北沢



下北沢のメインシアター、本多劇場
386席の本格的演劇劇場



下北沢が演劇街になるきっかけとなったザ・スズナリ。飲み屋長屋の2階を改装して作られた小劇場。

世田谷区が建設した北沢タウンホール地下にある「小劇場 B1」。ここも本多劇場グループのひとつ。



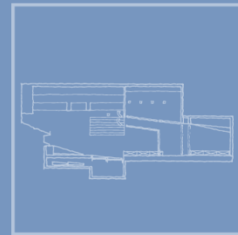
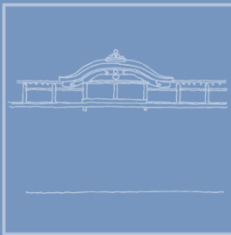
2020年

77億9,500万人

世界劇場 79億5,400万人ホール

国連人口基金が発表した「世界人口白書2022」では、世界人口79億5,400万人。
コロナ禍によってライブビューイングや配信が行われる事で観客数は一気に増大した。

世界中に配信すれば79億5,400万人ホール。
そう考えれば劇場の新しいあり方も見えてくるのでは!?



ライブビューイングなら、どこにでもビッグアーティスト

アーティスト

東京に一極集中している**実演芸術団体**の活動拠点

ライブビューイングで**地方都市**にも多彩な実演芸術に
触れる機会を

技術躍進により離れた所でも**ライブ会場**にいるような空間に

ライブビューイングなら、どこにでもビッグアーティスト



山口市産業交流拠点施設 KDDI維新ホール

所在地：山口県山口市

開館：2021年3月

席数：2,000席

外観



完成記念式典（2021.03.29）
自慢のスピーカーにスポットライトを当てている。



平土間利用時のホール空間（平土間1,000㎡）

配信によるエンタメニュービジネス開拓

文化庁が「**文化芸術収益力強化事業**」で事業者を公募

令和2年度戦略的芸術文化創造推進事業

国内の事業構造の根本的改革を目的に費用対効果を検証することで文化芸術団体等の持続的な活動の在り方を検討する事業

この事業へ提案が採択された**東急(株)**の企画に対し、シアターワークショップは協力企業として**演劇公演**を担当

劇団TipTap 『Play a Life』

劇団主宰者である上田一豪氏 作・演出

現地での公演のほかに別会場でのライブ配信と後日編集した映像のアーカイブ配信を実施

配信によるエンタメニュービジネス開拓

劇団TipTap 『Play a Life』



実演会場であるヒカリエホール
美術:柴田麻衣子

配信上映会場である
iTSCOM STUDIO & HALL 二子玉川ライズ
客席の両サイドには実演会場でも使用された映画ポスターを
吊り下げて、無機的な空間の中に上演作品の世界をつくり
出している。

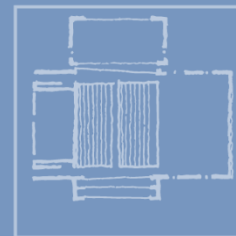
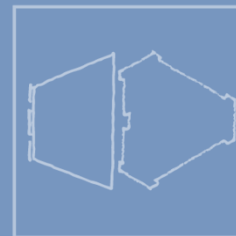
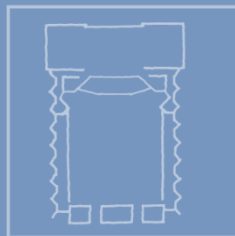
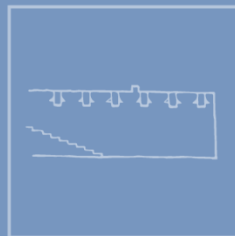


客席後方上手側にセットされた4台のカメラ



無目的ホール礼賛

利用者からの評判が悪い建物といえば劇場・ホールが代表ではないだろうか。
公演がうまくいったときはアーティストの力で、うまくいかないときはホールのせい？
仕方ないよ、色んな用途で使えるようにすることが条件の多目的ホールなのだから。
それならいっそ、多目的ホールはやめにして無目的ホールをつくろう！



文化は万能！多目的は無能？

戦後どんな演目にも使える**多目的性**が求められた文化施設

日本が**高度経済成長**を遂げ時代が豊かになるとホールを利用する**専門家**からは**多目的ホールは無目的**と批判の声が上がる

しかしそれは本当に多目的ホールゆえの**批判**だろうか？



当時の社会情勢を考えれば**多目的とすることが必然**であり、それが**次の発展**につながった

多目的ホールから主目的ホールへ

多目的ホールの**最大の課題**は、コンサートホールと劇場という、似て非なる空間を**ひとつのホールで両立**させる事

従来の手法は**劇場型のホールからのコンサートホール**への転換

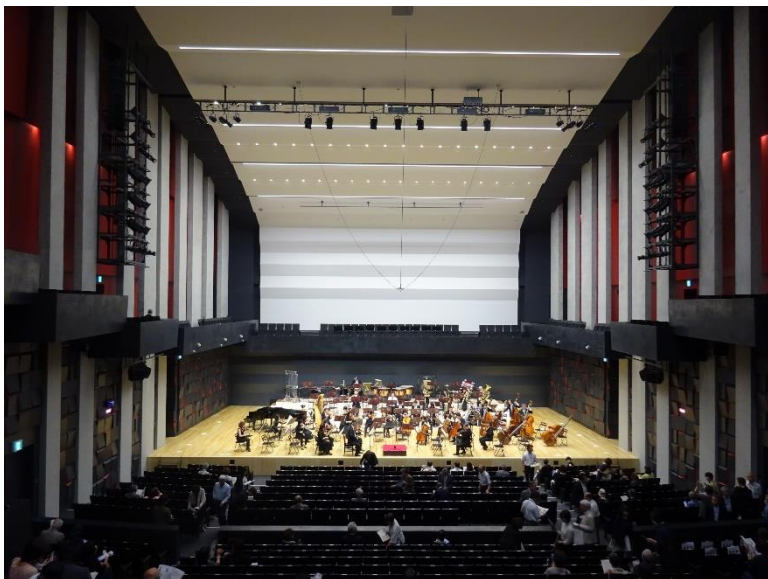


コンサートホール型の空間に走行式音響反射板や可動プロセニアム機構などの可変機構を取り入れ**劇場型に転換**



近年ではより**音響性能**だけでなく**空間構成**もより**コンサートホールらしさ**を追求する劇場が増えている

多目的ホールから主目的ホールへ



なみきスクエア内なみきホール

(2016年6月開館)

劇場型では710席。コンサート型では舞台を取り囲む席が追加され800席となる。



風テラスあくね

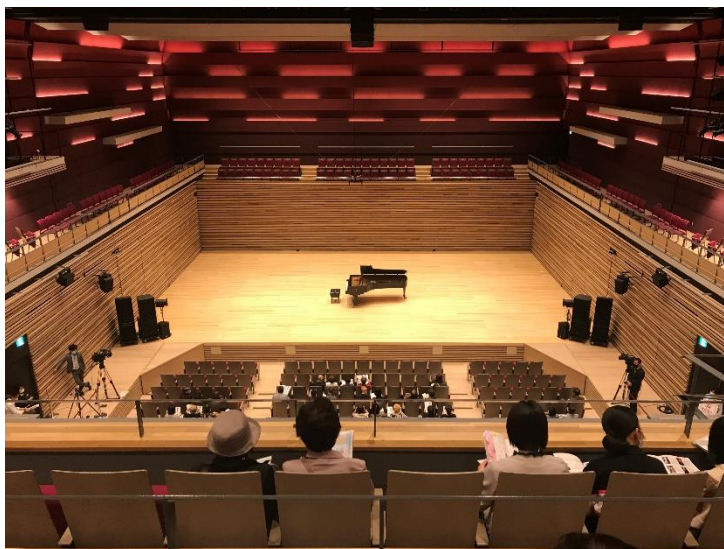
(2018年11月開館)

RCの壁面および屋根面がそのままコンサートホール形式の内装空間の形となっている。幕や照明バトンなどが吊り込まれたスノコ全体を舞台装置のように見せている。コンサート時は幕地を取り外す。

さいき城山桜ホール

(2020年10月開館)

舞台側面は部分ごとに移動でき、舞台袖空間に転換される。コンサートホール型では110席追加され916席となる。



多目的ホールから超多目的ホールへ

多目的ホールの**課題解決**のためには、主目的ホールから、さらには特定のジャンル・作品へと絞り込む**専用ホール**という流れが主流

地方都市では、特定の演目に特化することが困難
舞台芸術のみを充実させる事への批判もある



これまでの**多目的ホール以上に多目的に使えるホール**をつくる

茅野市民館と由利本荘市文化交流館カダーレにみる
超多目的ホールのありかた

多目的ホールから超多目的ホールへ



茅野市民館 誕生祭『Party C』
客席エリアを平土間とし、ダンスフロアにしたクラブイベント。2階の両サイドバルコニー席前面にスクリーンを降ろして映像を投影。

由利本荘市文化交流館カダーレ

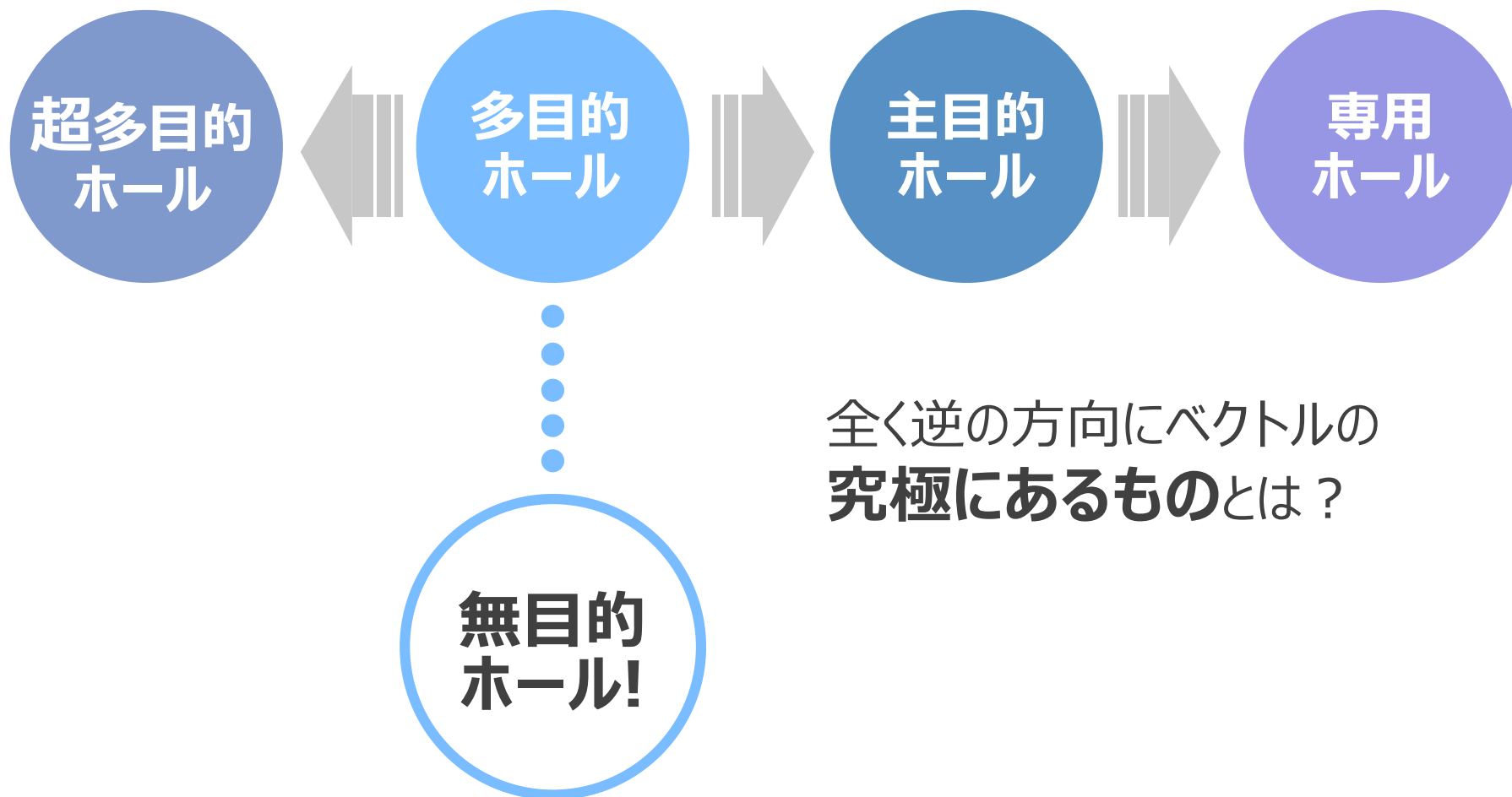


1,110席の内、1階席の536席はすべて可動席
前半分は客席ワゴンで奈落に、後半分はロールバック席で折たたんだ後、同様に奈落に収納され、完全にフラットな空間になる。



平土間の客席に丸テーブルを置き、飲食しながらジャズを楽しむライブコンサート。

多目的ホールから無目的ホールへ



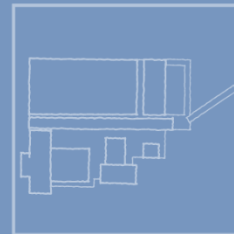
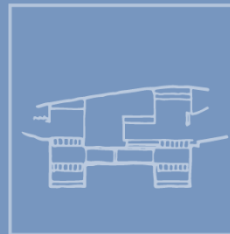
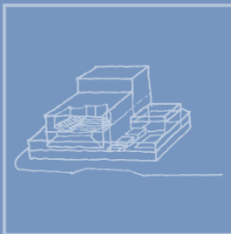
劇空間という概念

一生に一度は劇場を設計してみたいという夢を抱く建築家はたくさんいるだろう。

彼らの頭の中にはどんな劇空間が描かれるのだろうか？

新しいものを創り出すときには、一度過去に立ち戻ってみよう。

ギリシャ・ローマから現代まで様々な劇場があるが、学びは思いがけないところにもある。



劇空間という概念

舞台と客席が混雑一体となっている空間 = **劇空間**

『**劇空間を再考せよ**』というシンポジウムでパネリストの**唐十郎**が遺した「**劇空間は彼女の足の裏**」にあるという名言

アメリカの文献 = “stage-audience relationship”



グローブ座（ロンドン）
シェイクスピアが活躍していた時代の劇場様式を忠実に守って復元された。
テムズ川の左岸のほぼ同じ位置に建設され、1997年にオープンした。



「劇空間を再考せよ」のポスター
（2009年7月開催）
日本建築学会関東支部主催で
バウハウスダンス、落語、演劇の公演
と唐十郎氏などによるシンポジウム
『劇空間の理想』を開催した。

ストリップ劇場をまねる

劇場の発達史は**ストリップ劇場の変遷**に重なる

初期

踊り子さんは額縁の中で名画のポーズをとって動かないでいた

後に

額縁を抜け出し踊りだし、さらに花道をとおり「でべそ」と呼ばれる客席内の張出舞台で演技をするようになる

この**ライブ感**こそ **近代劇場** が求めていたもの

19世紀

プロセニウムアーチの向こう側の舞台の中で完結して演技をすることを良しとする19世紀の演劇

20世紀

舞台から飛び出すことを求めた
20世紀の劇場改革運動

浅草ロック座

1947年に設立された日本最古のストリップ劇場。現在の施設は1985年に新築された。「でべそ」と呼ばれる張り出し舞台を持ち、ストリップ劇場としての典型的な劇空間を構築している。



ショーパブに学ぶ

劇空間全体に**可変機構**を導入することにより舞台形式を様々に選び取ることができる**アダプタブルシアター**

- 1960年代にドイツでは公共劇場の小ホール、アメリカでは大学の劇場などで実験劇場として建設され、その後も最新技術を取り入れながら発展していった
- 日本の代表的なアダプタブルシアターは青山円形劇場、京都府立府民ホールアルティなどがある

大掛かりな**空間可変機構**を大胆に演出に組み込んで使いこなしている**ショーパブ**

六本木金魚

1994年開場のレストランシアター。コロナ禍によりテーブル形式を変えて、客席数を半数以下の72席に改装。舞台には3基のラムダシステムと呼ばれる機構が設置されている。



すべては作品のため

演劇という行為は、役者だけでつくるのではない。観客もまたその日の公演をつくるメンバーの一員となる。

だからこそ、舞台と客席を合わせた**劇空間という概念**が重要になる

建築家や劇場技術者が注目する最新技術の導入は必要でもあり、落語の様にそれぞれの観客の頭の中で劇世界が創造されるなら、何も要らない

作品が劇空間に求めるものは常に異なり、観客はその違いも楽しんでいる。
全てが正解であり、正解はひとつもないのかもしれない。
だからこそ挑戦する価値がある。

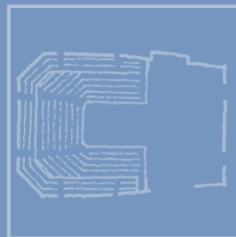
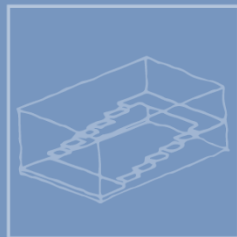
HALL for ALL, ALL for HALL

劇場・ホールはすべての人々のためにある。

劇場・ホールが持つ力は、文化芸術に限らず、街づくりや人づくりのためにも大きな効果を発揮する。

ならば、すべての人びとは劇場・ホールのために何ができるのか？

この逆向きのベクトルの答えが見つけたとき、初めて劇場・ホールが人々のものになるのだ。



劇場建築家に求められる役割とは

公共ホールの**設計者選定**ではコンセプトやホールの考え方
の他に、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、省エネルギー、
まちづくり、地域貢献などの課題が提示される

計画段階から**市民参加**が必須条件

劇場・ホールが**特定の市民だけの利用**
にならないような**提案**が求められている

様々な**ワークショップ**や**プレイイベント**を企画し
市民のアイデアを収集することが求められる



劇場建築家に求められる役割とは



風テラスあくねのワークショップ

市民にもわかりやすいように大きな模型を持ち込んで参加者の質問に答える設計者の古谷誠章氏と伊東



石巻市複合文化施設のワークショップ

参加者はグループごとに意見を出し合い、発表する。発表を聞いて、コメントを返す設計者の藤本壮介氏



大船渡市民文化会館のイベント

仮囲いペインティング

子どもたちに交じり設計者の新居千秋氏も参加



都城市総合文化ホールでの市民サポーター研修

プロの指導によるフロントスタッフ研修を実施

主役はだれ？

劇場法では劇場、音楽堂等は施設だけを指すのではなく、施設の運営にかかる人的体制も含めて構成されるものだとしている

プロデューサー や **芸術監督** の起用

最高峰の舞台芸術作品を希求する**芸術家主体**の流れから、時代の流れが経費削減や効率化の方向にシフトしたことにより、**観客が主役**となっている

アートマネージャーという**新たな職能**が生まれ、国内でも多くの大学で**アートマネジメント教育**が行われている

ホールのためにできること

**SDGsの「だれ一人取り残さない」という理念が
劇場においても重要**

**「新しい劇場ができたなら、やってみたいこと」というテーマの
高校生ワークショップで出た「みんなで大掃除」というアイデア**



高校生ワークショップ



都城市総合文化ホールの開館記念式典

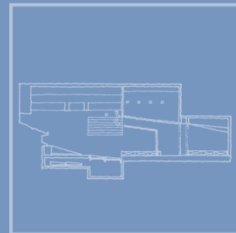
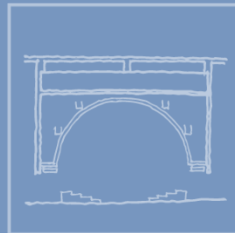
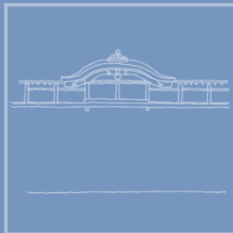
昨日?

機能?

きのうを越えて、どこまでも

劇場でもそれぞれ機能を表した部屋の名前がつけられ、
舞台は演じる場所、客席は観客のいる場所とそれぞれの空間には用途が定められ、
機能が盛り込まれている。そんな考え方はもう過去のもの。

劇場は創造する場であり、そこを棲み家にする劇場人は創造力のカタマリだ。
どう使うかは劇場人が自由に決めればいいじゃないか！では、建築家はどうすればよい？



シドニーオペラハウスが踏み絵

設計者選考における**シンデレラストーリー**からはじまった建設プロセスには**様々な問題**があったシドニーオペラハウス

建物のデザインに起因する多くの設計変更と基本的な機能上の欠陥

建築としても今では**世界遺産**に登録される**オーストラリア**を代表する建造物



シドニーオペラハウス

機能 or デザイン

というのは劇場においても長年の**課題**

昨日は機能、今日は万能

かつての**機能主義**が主流の**時代**ではすべての部屋に用途を表す名前が付けられていた

現代では一つの空間が**様々な用途**に使われる事を目指す

- 諸室は「ルームA」「スペース1」のような機能を表さない名称の空間になり、劇場においては練習室や会議室を臨時の楽屋に、逆にホールが使われていない時には楽屋は会議室、ホワイエをギャラリーとして使う事もある。
- 舞台は客席、客席は舞台という試みも行われている

機能主義を**脱却**して劇場空間はより**クリエイティブ**な空間に

「となりの縄文人」

茅野市民館で上演された本作品は、舞台に仮設の客席を設け、一階客席エリアがメインの演技エリア、サイドバルコニー席や二階席も舞台として使用された。



いったいぜんたい、一体感？

客席設計のポイントは、よく見える事、よく聞こえる事
しかし、それ以上に重要なのは**客席の雰囲気**

|| 一体感

- かつてのオペラハウスの**馬蹄形客席**を現代風にアレンジした
多層バルコニー型客席
- **1900席**余りの客席がワンスロープに納められ、
どの席からもすべての観客がひとつになって舞台と向き合う構成が
一体感を生み出している**群馬音楽センター**
- 一体感を感じられない**サイドバルコニー**の見つらさ問題

いったいぜんたい、一体感？



オスロオペラハウス

ホワイトエの屋根に自由に登れるダイナミックな外観であるが、客席は伝統的な多層バルコニー席のスタイルをとっている。



群馬音楽センター客席空間

ギリシャ劇場のように1,932席の客席がワンスロープに収められており、すべての観客がひとつになって舞台と向き合う構成は高い一体感を生み出している。

居場所を超えたフォースプレイス

リアルな日常は演劇的な虚構の世界よりもはるかに劇的なことに満ち溢れている。
一方で、社会情勢が変化する中で再び劇場の存在意義が問われている。
図書館とカフェがタッグを組んでサードプレイスとして認知され、市民権を得ている。
それならば、劇場はその先に行くフォースプレイスを目指し
社会に必要な不可欠な存在にしていこうではないか！



日常が劇場

演劇は誰もが想像しないような世の中での天変地異や大事件、重大事故など**様々な出来事をフォロー**することで劇世界を構築

1990年代に生まれた「**静かな演劇**」と呼ばれる
平田オリザ氏の新たな演劇様式

- 日常を切り取っている様な演劇スタイル。完璧に計算された演出があり、訓練された役者たちが正確に演じることによってしか表現できない世界がそこには提示されている。

好きな時に好きな場所で人々の会話や動きを眺めることで十分に劇的な行為を楽しむことができ、
日常が劇場空間となる

日常が劇場



三軒茶屋で行われている三茶de大道芸のワンシーン。
日常の中に異物が紛れ込むことで街が劇的になる。



彩の国さいたま芸術劇場のロトンダで定期的に行われているミニコンサート。昼公演の開演前に無料で楽しめる。

フォースプレイスは劇場

1st PLACE

家庭
自宅

2nd PLACE

学校
職場

3rd PLACE

居心地の
良い場所

4th PLACE

図書館はサードプレイスの
代表選手

神奈川県大和市文化創造拠点シリウス
常に多くの市民が集まり、賑わいにあふれる公立施設



フォースプレイスは劇場

フォースプレイスは再び**他者とのつながり**が感じられる場所

「人とつながる」に**創造**という行為が加わる事でより一層意味が明確になり**価値が生まれ、継続性**にもつながる



北上市文化交流センター・さくらホール

日本建築学会賞の現地審査時のフリーゾーンの状況。
多くの市民が行う様々な活動が高く評価された。



座高円寺

一階ロビーで行われた古本市。ホールとも連動して、
これからの発展的な展開が期待できる。

一人劇場とホワイトキューブ

演劇の空間を考えていると、いつも対極にあるものを考えてしまう。

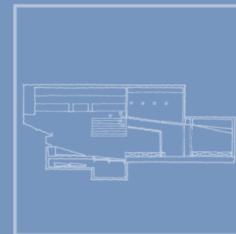
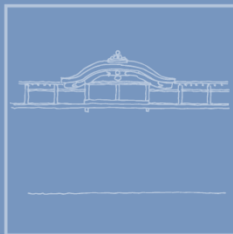
大きいに対して小さい。黒に対して白。

配信を使えば世界中の人が観客となる世界劇場ができる。

その対極には、たった一人のための劇場がある。

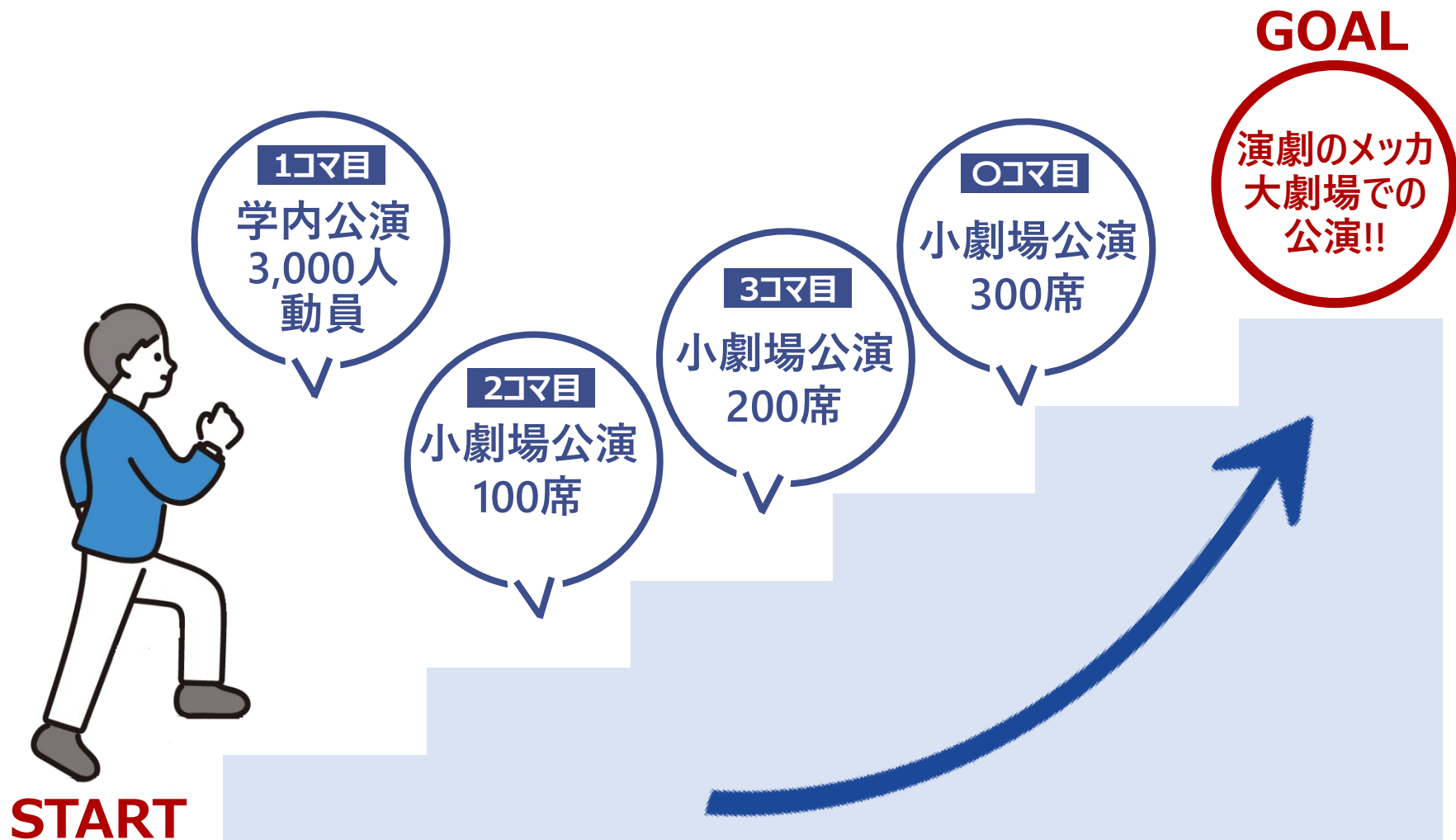
これまで、劇場といえばブラックボックスが定番だった。

それなら、対極のホワイトキューブの劇場を考えよう。



一人劇場

かつて学生演劇の世界にあった「演劇すごろく」という言葉



一人劇場

最近ではかなり事情が変わってきている**学生演劇**

すごろくの「ふりだし」に立つ演劇人のはじめの一步を
踏み出す場は100人未満の「**ないもない自由な空間**」

個人やファミリーの思いから**ミニシアター**をつくるという動き

「世界劇場」の対極にあるのは「ミニシアター」であり、
その極限は**一人の演者が一人の観客の前で演じる**こと

BLACK or WHITE

「すごろく」の次のステップは**200人程度の劇場**

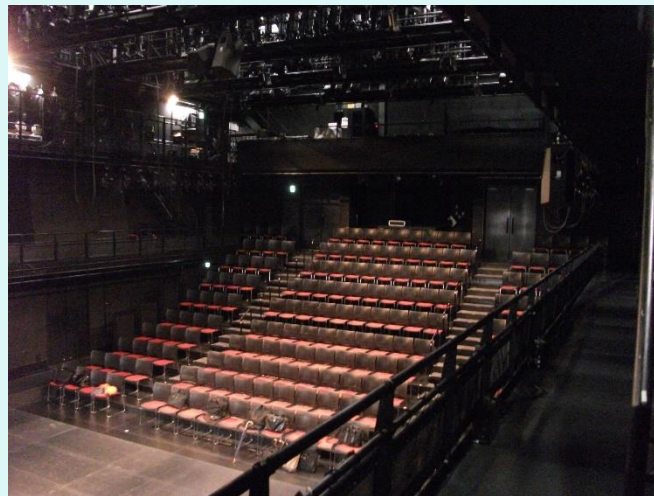
ブラックボックス

ザ・スズナリ、吉祥寺シアター、シアター ترام、座・高円寺1など・・・

吉祥寺シアター（最大定員239名）



ホール空間を取り囲む回廊が設けられており、舞台の中央線上の後方には搬入用の扉が設置されている。前面道路も使用した演出が行われることもある。



客席段床は前から8列目までが可動。天井面は全域にキャットウォークがある。サイドバルコニーは演出空間でもあり、客席としても使用される。

BLACK or WHITE

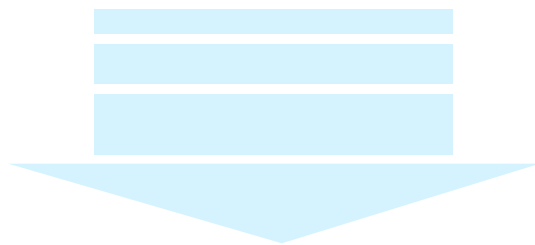
安芸灘交流館

ホール空間の内部に木のフレームを設けて二重構造としている。屋根も木構造の小屋組みとなっており、ブラックボックス型でありながら、柔らかに包み込まれた空間となっている。



松川村公民館すずの音ホール

サイドギャラリーと天井面に取り付けた木製ルーバーがインナーボックスの役割を担っており、インテリアに表情を与えている。客席は可動収納式であり、平土間利用が可能。



BLACK or WHITE

こうした二重・三重の**空間の重なり**が演劇の**架空世界**をつくり出す助けになる

そして、壁を打ち破って**現実と繋ぐ**ことがより**劇的な行為**になる



外部空間につながる演出

建築会館で行った劇団唐ゼミ公演のラストシーン。空間を覆っていたテントを開いて、出演者が外部空間に去っていく演出が行われた。

BLACK or WHITE

小劇場でも**映像技術**が入ってきたことにより、**プロジェクション**の**効果**が最大になるよう、内装に**白**を使う動きが出てきている。



LUMINE 0 (ルミネゼロ)

ホワイトキューブ

ブラックボックスは**演劇用**、ホワイトキューブは**美術用**と
思われがちだが、**クリエイターが自由に選べば良い**のであり、
そこから**新しい表現**が生まれてくる。

2030年モデル

近年、私たちが次世代の劇空間として提案してきたのは6つの2020年モデル。

機会をいただく度に繰り返し紹介してきた

そのおかげでこれらのアイデアを反映した計画が少しずつ実現している。

そして2020年はすでに過去となり、次の10年に向けた2030年モデルを検討している。

今はまだ2020年モデルの発展形に過ぎないが、次々と新しいテーマが浮かんでいる。



現代の劇空間 – 2020年モデル

1 アートなまちのアートなくらし

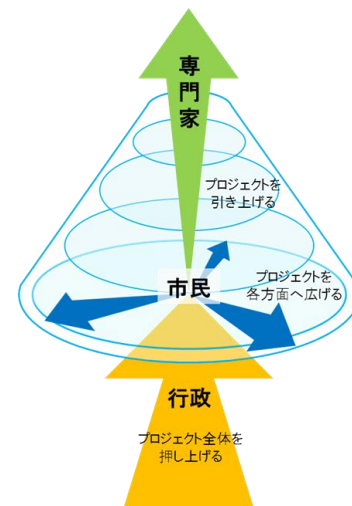
2 文化運動体の設立

3 新たな音楽ホール

4 シアターコンプレックス

5 究極の専用劇場、超多目的ホール

6 魅力的な劇空間の探求



文化運動体の概念図

現代の劇空間 – 2020年モデル



立川ステージガーデン

新たな音楽ホールのプロトタイプとして計画

(3 新たな音楽ホール)



ダンス チャペル (コペンハーゲン)

礼拝堂と火葬場だった施設をダンスの活動拠点に改造

(5 究極の専用劇場、超多目的ホール)



舞踏館 (京都)

蛤御門の変以前からあった蔵を
舞踏専用劇場に改装

(2021年5月で公演終了)

(6 魅力的な劇空間の探求)

次世代の劇空間 – 2030年モデル

1 芝居街・エンタテインメントシティ

2 新たな広場、フォースプレイス

3 配信ライブ

4 作品重視の空間づくり

次世代の劇空間 – 2030年モデル

1

芝居街・エンタテインメントシティ

劇場あるいは演劇を中心としたまちづくりの試みがすでに行われているが、必ずしも順調に進んでいない。どうすれば市民の理解を得られるのか。アートの世界に留まらない議論の先に多様性豊かな劇場都市が誕生する。



池袋西口公園野外劇場 グローバルリング シアター

2

新たな広場、フォースプレイス

時代をリードする若手オピニオンリーダーたちは、もはや既存の劇場に興味がない。むしろアトリウムや広場で行われるパフォーマンスに可能性を見出している。そして居心地の良いサードプレイスから、つながりを生み出すフォースプレイスの関心が高まるなら劇場こそが最適な空間となる。

次世代の劇空間 – 2030年モデル

3

配信ライブ

地方都市の劇場では人気アーティストの公演はめったにない。コロナ禍のライブビューイングのおかげで一挙に配信技術が進んでおり、地方都市においても「新たな音楽ホール」の存在価値はますます高くなる。



舞台芸術の配信 – 劇団TipTap『Play a Life』

4

作品重視の空間づくり

劇場の演出技術が大きく変わりつつある。映像の重要性が高まり、さらには配信も加わってきた。舞台関係者は舞台機構や照明、音響、そして映像を連動させてシーンをつくることを求めており、全ての装置が一元的にコントロールできるように機材を持ち込むケースが増えている。創造型の劇場では常設設備を持たず、そのかわりに搬入や仕込がしやすく、構造的な強度や電源などのインフラ設備が整っている事こそが重視されるようになる。